

福 井 県 医 師 会

だより

第670号 平成29年(2017)4月



春うらら 鯖江市 清水 元博

表紙写真説明：春うらら

鯖江市 清水 元博

鯖江市では、7年前から「春の三大花ものがたり」として、春を感じ目にも愛らしい早春の「さばえ菜花」が陽春の「桜」と晩春の「つつじ」に並ぶ春の風物詩となるよう取組んでおり、毎年4月中旬には日野川の堤防沿い約300mが美しい菜花ロードとなります。

撮影当日、暖かな日差しのもとどこまでも続く菜花の姿に大変感動し思わずシャッターを切りました。

醫 縫 録

小浜に立ちて思うこと

杉田玄白記念公立小浜病院長 小 西 孝



昨年10月1日に杉田玄白記念公立小浜病院に着任いたしました。北陸は初めての地で不慣れな事ばかりですが、4か月経ち漸く慣れて参りました。この原稿を書き始めている本日は日本中がこの冬一番の寒波の来襲のため小浜も大雪で、部屋の窓からの景色も吹雪の為100mほど先はよく見えません。外に出るときはスパイクの付いた長靴ですべらないように注意して歩きました。日常生活でこのような経験は初めてです。

振り返って見れば大学を卒業して以来、京都大学附属病院、大阪赤十字病院、玉造厚生年金病院、天理よろづ相談所病院、大津赤十字病院と様々な病院で学ばせて頂きました。病院にはそれぞれ特徴があり多くの病院で働くことができたのは私にとってかけがえのない経験でした。

そのような病院の中で、小浜病院は美しく、ゆったりと作られ、病院のあちこちに太陽の光も差し込み、院内に作られた薬草園はいつも手入れがされています。我が国の本草学の草分けである小浜藩医中川淳庵が当時の薬草会に出展した生薬の中からいくつかを駐車場からの入り口左側に展示され、一方杉田玄白コーナーには杉田玄白が華岡青洲にあてた手紙の写しが飾られています。日本における西洋医学の黎明期に活躍した先達は小浜藩の大先輩であります。玄関に向かって立つと正面には解体新書全五巻を翻訳した小浜藩医杉田玄白の像が立っており、左を見ると小浜市役所の建物の壁には北陸新幹線小浜・京都ルート決定の垂れ幕が見えます。北陸新幹線が完成すれば福井からも京都からもあつという間に小浜に来られるようになります。私の部屋の隣の応接室に何気なくおかれた風呂敷を開けると中にはなんと解体新書全5巻の写しが入っています。毎朝部屋に入ると電子カルテのスイッチを入れ救急外来の受診リストを確認します。循環器疾患の方が受診していればER病棟のマップを見てその方を探し経過を確

認します。その後7階の循環器疾患の方が主に入院する病棟でエレベーターを降りると心地よいオルゴールの音色が流れるカウンターでナースが迎えてくれます。最上階の9階の会議室に行くと窓の外には美しい小浜湾が見渡せ、その向こうには若狭湾が広がっています。私はこの景色を見るとなぜか癒されます。皆さんも一度この景色を見にお越しください。

さて、小浜病院の医師は相変わらず不足していますが多くの方々のご配慮、御援助のおかげで何とか地域医療に貢献出来ています。研修医からは地域医療、救急医療、総合診療の研修に特徴のある病院としてとらえられており、若手医師の集まる活気ある病院として人気を博しております。しかし、さらにより良い専門的医療ができるようになるにはどうすれば良いかと考える日々です。小浜地区には唯一の総合病院なので、地域の人々の健康管理を急性疾患から慢性疾患まで一手に引き受けざるをえません。ER病棟、PET-CT、リニアック、心臓カテーテル室などの高度の設備も整い、いつでも治療をお引き受けすることができます。病院は各科の医師が学会発表に積極的に参加できるように応援し、国内、国外の主要医療機関への研修も積極的に推し進め当院での診療に貢献して頂けるようにしています。各科の指導医層の充実がこれからの課題であり、皆様のご協力をお願いしなければならぬところです。嶺北からも京都からもかなりの距離があるため、どうしても地域で診療が完結出来るようになることが住民の方から求められます。そのためにはますます多くの先生方のこの地域の診療にご参加をお願いしなければなりません。これからもよろしくお願いたします。